

Preview Only  
Legal Use Requires Purchase

# 合唱の イントロ ダクション

合唱の本当のキソを  
身に付けよう

著——伊東 恵司  
監修——島根県合唱連盟  
作曲——北川 昇  
三宅 悠太  
三好 真亜沙  
森山 至貴  
山下 祐加

Preview Only  
Legal Use Requires Purchase

TELECHORAL Introduction

## はじめに

合唱の素晴らしさは身体ひとつで「誰でも気軽に参加できること」でもあります。しかしながら「指導法」という点については、音楽的な要素や明確な技術習得だけでは見えない側面もあり、なかなか確立してこなかったジャンルだと言えかもしれません。

この本では、決して「大会やコンクールでの成果だけを目的とするのではなく、クラス合唱や音楽の授業での取り組みをも意識して「合唱とは何か」「どういふ視座を持って指導していくべきか」「どのようなプロセスを辿ることができるのか」という点にウェイトを置いて編纂を考へてみました。

5名の新進気鋭の作曲家には、生徒や歌手がどのような順番で合唱的なスキルを獲得していくのか、他者の存在や自身の役割、仲間との関係を理解していくのか、ということイメージしてもらいたい。（言わば指導者目線での）作曲をお願いしたところ、それぞれに素晴らしい芸術性や個性を持ちながらもエチュードとしての仕組みを備えた曲を作ってくださいました。また、私自身も「ウォーミングアップ」とも言うべき基礎練習「考え方のアイデア」をいくつか紹介しております。

いきなり本格的な合唱曲のパート練習が始めるというようなことになる前に、丁寧なイントロクッションで音楽の仕組みや考え方を伝えることによって、生徒自身が分り考え工夫する手動への意識の萌芽を期待したいと思っております。

ぜひ一度だけでもチャレンジしてみてください。

2017年4月 合唱指揮者 伊東 恵司

## 目次

はじめに	.....	
導入① 合唱とは何か?	.....	4
導入② 身体の準備～心を開く	.....	
導入③ 耳を育てる	.....	5
ウォーミングアップ		
① お互いの声を聞き合う。お互いの息を合わせる。	.....	6
② 落ち着いて歌う(聞く)。テンポを共有する。	.....	7
③ 二人で作る音(一人では作れない音)の面白さに関心を持つ。	.....	7
④ 自分の役割を知	.....	8
⑤ よことたの興味性を意識する。	.....	9
⑥ 息を運び、息をさせる。音色を合わせる。お互いの口型等を確認し合う。	.....	10
⑦ 口型を使って音楽を感じる	.....	10
チーム・音楽と身体表現	.....	11
テーマⅠ メロディを歌う		
わたしの心には(曲/北川昇 詞/みなづきみのり)	.....	
テーマⅠ ロードを聞き合う、歌い合う		
いつまでも/We will sing a song(曲/三好真亜沙 詞/みなづきみのり)	.....	17
テーマⅡ 言葉と抑揚～日本語をまとまりで歌う		
あなたは(曲/北川昇 詞/みなづきみのり)	.....	21
テーマⅡ 言葉と抑揚～日本語の表情と内容で歌う		
はるがやってきた(曲/山下結加 詞/みなづきみのり)	.....	24
テーマⅢ チームでカノンを楽しもう		
なんにもなしのき(曲/山下結加 詞/みなづきみのり)	.....	27
テーマⅢ カノンからの展開		
ほたる(曲/三宅悠太 詞/三宅悠太)	.....	29
テーマⅣ たての響き～ハンドサインでハーモニーを作ろう		
よぞら/Dona, dona, pacem(曲/三好真亜沙 詞/みなづきみのり)	.....	32
テーマⅣ たての響き～移動リズミと和音の響きを楽しもう		
爪(曲/森山至貴 詞/みなづきみのり)	.....	35
総練習① ベラ合唱曲を楽しもう		
絆の中(曲/三宅悠太 詞/新川和江)	.....	38
総練習② ピアノ伴奏付きの合唱曲を楽しもう		
見るつぼみの歌(曲/森山至貴 詞/みなづきみのり)	.....	44
おわりに	.....	50

## 導入①

# 合唱とは何か？

音楽のジャンルの中で合唱には「一人ではできない」「言葉をつかむ」という特徴があるといます。ライフスキルやソーシャルスキルを獲得している中高生や大学1階においては「言葉を的確に用いながら」「人との関係を取り結んでいくこと」が重要な課題になろうかと思いますが、「合唱」とはまさにそのような要素を中心に据えたジャンルであると思うのです。

他方で、キリスト教音楽とともに発展してきたとも言える西洋起源の合唱に比べ、日本では「合唱に対する考え方」が定まりきっていないという現状があると思います。音楽の専門教育を受けてきた音楽教師でも専門は声楽や器楽が中心であることが多く、教育の中で「合唱」をどのように教えていくのかということに関して多くの戸惑いが生じているようにも感じます。

このような現状で私たちに、先ず段階や目的に応じた合唱教育の在り方を多数提案していく必要があるようにも思っています。

ここに示すのは一例ですが、学校の音楽の授業の中で、もしくは合唱団と向き合う中で、ぜひ生かして欲しい考え方と実践サンプルがあります。

一般的に「二つの柱「自分の力でしっかり歌うこと」と、その一方で「耳を育てて人の声を聴くこと」」を想定していますが、このことは「自分の足で立ってしっかりと生きること」と「人と共に生きていくこと」のバランスで構成されるべき社会の構図と同様でもあり、合唱そのものが私たちの社会生活と同一の基盤に成り立っていることを示しているとも思うのです。つまり「歌うことと生きること」「ともに歌うことはともに生きること」と言えるのではないのでしょうか。

## 導入②

# 身体の準備～心を開く

どのような声が合唱の声として理想的なの？という問いに答えはいろいろでしょう。歌う曲の内容や発表の目的等にもよります。ポップスを歌うときと日本民謡を歌うときが同じであるとは思えませんし、体育館で学校行事として発表する場合と音楽ホールで合唱コンクールに出場しようという場合では目的が異なるので、これらを同等に扱って扱う必要はないと思います。意識すべきことは、「正解は一つではない」ということと、人はいろんな声を出せることを理解しておくことではないかと感じます。また「さあ、笑いなさい」と言われて笑えるとは限らないのと同様、「さあ、歌って！」と言われてのびのび歌えるかどうか不明です。声は心の反映です。決して押し付けることのないリラックスを与えること、モチベーションを与えること、身体を認識させること、声に力を持ち声を生かすこと…など、柔軟な発想を持つことが結果として良い声につながる第一歩だとも言えます。

とは言え、合唱での様々な発声テクニックはすべて腹圧と頭声を意識させるものだと思います。

すし、恐らく様々な教則本は、そのような発声を意識するにはどれも有効だと思えます。しかし、加えていくつかの提案をしておきたいと思います。一つは場所の問題です。音楽室などだいたいにおいて吸音する壁面があり、合唱に向いているとは限りません。とどまきよいのですが、例えば教会や、学校の中でもよく響く場所を探して声を出すという経験をさせることがあってもよい気がします。「響きに包まれる」「上手に響いた気がする」というシチュエーションを作るとは、歌が好きになるプロセスとしては大きな意味があるように思えます。また経験を積んだ上級生等と一緒に歌うということが勝手に良い声を作ることにつながっていくこともお伝えしておきます。つまりそのこと「声を出す」ことに必死になるよりも先に「耳を育てる」ことを優先したほうが（もちろん並行したほうが）理に当たっているということを示しているのかもしれませんが。

## 導入③

### 耳を育てる

「耳を育てる」と言うと難し、ソルフェージュが浮かび、ちょっとドキッとしてしまうのですが、私の提案はそのようなものではありません。社会生活の中でも、自分の言いたいことだけを言っただけで他者に耳を傾けず、人がチームワークの妨げになるように、私たちは普段から相互の話をよく聞き合ふ必要があり、そのことがコーラスの原点になるという意味です。また、私たちは心に余裕のないときには、何かを言われていたとしても聞き流してしまったり、怒発してしまいがちです。しかし、心にゆとりのある時には自分に対して耳の痛いことを言われたとしても、「なるほど、気をつけないと…」と受け入れることができます。つまり「聞く耳を持つ」ということは「心の状態」とも言えます。このことを合唱活動に当てはめると、例えば「楽譜に張り付いて必死になっている状態」ではとても隣のパートの人の声を聞くところではない、ということと同じなのかもしれません。また、ある種の「慣れ」がないと、「何をどのように聞いてよいのか戸惑ってしまう」ともなりかねません。少なくとも、心にゆとりや慣れを作ることによって、メンバー「耳」合唱の動のようなものを覚えることができます。

例えば厳密な意味でのコダー・システム（ソルミゼーション等）を実践するにはある種の覚悟が要るのかもしれませんが、その要素を上手に抜き出して、耳を使ってハーモニーとカノンに馴染ませること、合唱へのウォーミングアップとして非常に有効です。恐らくそのような教育方法が音楽科や音楽部で取り扱っていないことをもって「アカペラは難しい」という先入観や自身の「対音（移動）」についての知識が乏しいことから、「耳を育てる」ということに対して自己満足な指導者が多いように思います。でも、そもそも私たちはCMソングや歌謡曲、ポップスなんかを楽譜から覚えるのではなく聞き覚えていますし、日々耳からたくさんの情報を仕入れているはずなのです。生徒たちは、音程だけでなく感性の鏡を使いながらそこに反射する瞬間の音、声、音色を聞き分けます。それらに耳を傾けさせてやることも必要でしょう。

## ウォーミングアップ

では、いよいよ歌っていきましょう。まずはウォーミングアップ（ウォーミングアップ）です。合唱とはチームプレーでもありますから、決して個人の声を鍛えるだけでなく、コンビネーションや連携プレーの練習も必要ですね。ここに示したのは何もない練習ばかりですが、毎日取り入れることで「耳を育て他の人の声を聞く」ことや「互いの声を感じながら声を合わせる」というアンサンブルの基礎力が養われると思います。野球部の人たちがキャッチボールから始めるように、二人や三人や数人のチームで互いの声を聞き合い会話することから始めてみましょう。これらの練習を参考にしながら各自、独自の練習パターンを作ってください。

### 1 お互いの声を聞き合う。お互いの息を合わせる。

「音程」と「声質」を聞きながら合わせたいですね。「先輩が先に歌い、新入生や後輩がそれを真似する」というスタイルでもよいと思います。最初の音は必ず丁寧に、そして打楽器や弦楽器のようにレガートで歌ってみましょう。一緒に歌うときには一緒に息を吸いま

交互に歌う（二人の生徒が向き合って、あるいはアイコンタクトを使い）

- ① Aさんが歌う ② Bさんが歌う ③同時に歌う ④音程（音域）を揃えて

譜例1

Example 1 musical notation showing two staves (A and B) in 4/4 time. Staff A has the lyrics "ma e ma" and Staff B has "na e ma". The notes are quarter notes.

譜例2

Example 2 musical notation showing two staves (A and B) in 4/4 time. Staff A has the lyrics "na no na" and Staff B has "na no na". The notes are quarter notes.

## ② **おまけ** 落ち着いて歌う(聞く)。テンポを共有する。

慣れないとちょっと慌ててしまいますね。大事なことは落ち着いて呼吸をする。と何度かやると慣れてきます。「つられてしまわないように」と意識しすぎず、声になったり、マルカートにならないようにしましょう。一人のときと同じように、最後の音(低い音)を丁寧に歌いましょう。

追いかける(二人の生徒が向き合って、あるいはアイコンタクトを使い)

- ① Aさんが歌い、Bさんが1音符遅れて追いかける ②音程(音域)を変えていく

譜例3

譜例4

## ③ **おまけ** 二人で作る音(一人では作れない音)の面白さに関心を持つ。

全音と半音のぶつかり、長3度と短3度のぶつかりですね。慣れないと面白いものです。こういう音も時には面白いものでしょう。神経質になりすぎず、ぜひ遊びを持ってチャレンジしてみてください。一瞬の濁ったような音の後にきれいなユニゾンになっていることが大事です。

同時に違う音を歌う(二人の生徒が向き合って、あるいはアイコンタクトを使い)

- ① Aさんが歌う ② Bさんが歌う ③同時に歌う ④音程(音域)を変えていく

譜例5

譜例6

## 4 自分の役割を知る。

徐々に歌から合唱へと移っていきますが、その前に是非知っておいてほしいことがあります。それは「和声の中の自分の役割を知る」ことです。いま歌っているこの音は、主役なのか、脇役なのか、と意識するだけで大きな差が生まれます。ここを感じながら歌うようになるために、ハンドサインを用いた移動ド唱法を提案します。

### ●移動ド唱法とは

「移動ド」「固定ド」はそれぞれにメリット・デメリットと役割がありますが、移動ド唱法最大のメリットは、相対的な音のインターバルや音感の理解を、「聞く耳を作りやすさ」ことではないでしょうか。また「音楽のしくみ」の多くは移動ドで「階名」に包含されているとも言えます。特に歌のイントロダクションと考えると、例えば「からまじ」で終止する曲などはその代表例と言えます。その歌がドで終わればそれは長調であり、ドで終われば短調であると認識することもできるでしょう。

生徒たちはこれまでに経験の中で愛唱できる歌を数多く頭に持っています。それらを移動ドで捉えなおすことが、理解を超えて「音楽のしくみ」一つのパターンとして理解することに役立つでしょう。基礎知識として、移動ドで（根音、第5音、第3音）のバランスを取ることで響きが変わります。（大人は理屈で「そんな難しいこと」を教えることはありません。若年層は大人より耳が良く、理屈を教えなくてもきれいな響きのほうに寄って来ます！）

属音や下属音についても、主要な音（和声音）と倚音的（和声外音）なものに対する感性も整理され育まれます。

### ●ハンドサイン

移動ド唱法の理解を手助けするための一つの方法が「ハンドサイン」です。ハンドサインとは、ハンガリーの作曲家で教育者でもあるコダーイ・ゾルターンがジョン・カーウェンの考案したサインを改良し、音楽指導に用いたものです。実際に子どもや生徒への練習にハンドサインを使うと、驚くほど食いつきがよいことを実感します。理屈を説明する必要はないでしょう。例えばサッカーのイントロダクションに「ただボールを蹴る」「フットワークを試みながらボールと戯れる」という方法があると思いますが、「蹴って走る」「蹴いかけ、また蹴って走る」「取られないようにキープする」ということに（生徒に説明する）、理屈が不要なのと同じようにも思います。ハンドサインを使ってたくさんの歌を歌うことで、音組織と相対音感が身体に沁み込んでいくということが大切です。音楽そのものは「楽しむ」ためのものでもありますが、音を聞く楽しみ、音を合わせる楽しみを上手に作ってあげたいということでしょうか。

ハンドサイン一覧





## ★ハンドサインで「キラキラ星」を歌ってみよう

譜例 7

## 5 よことたての関係性を意識する。

## ●3人でカノンを歌う（よこ・関係性を意識する）

まず全員でユニゾンで歌いましょう。音程のピークを目指して息を運ぶことが大切です。歌い出しの低い音はそっと歌い、高い音に向けて息のスピードを上げるよう心がけてみましょう。次にカノンにします。カノンの「手は息の運び」が大事なところで「ずれ（模倣され）」していくところにあります。この「ずれ」が移り変わるように歌えるとよいですね。

- ①役割を変えていく（②音程・音域）を変えていく
- ③タイミングを変えていく（2音符ずれ→1音符ずれ）

## 譜例 8

## ●3人で和音を作る（たての関係性を意識する）

根音はしっかり、第5音は明るく、それを柱に「3度」を入れてみましょう。きれいな和音を味わっててください。それがきまれば曲を練習しなくても十分楽しめます。さらに、6度・7度・9度などのバリエーションを楽しみながらきれいなハーモニーを作ってみてください。よく響くところで練習できると効果倍増です。

- ①役割を変えていく ②音程を変えていく
- ③和音の種類を「やさしい」く（3人ずつのグループを合体させて6人で練習してみる。ドミソ→ドミソラ、ドミソラシ、ドミソラシレなど）

## 6 **呼吸** 息の運びを合わせる。音色を合わせる。お互いの口型等を確認し合う。

グループで一つのメロディを歌う（輪になってお互いの顔を見ながら）



## 7 からだを使って音楽を感じる

身体と歌の関係性を考えたとき、ボディパーカッションもまた有効な練習プロセスを作るように思います。一つの具体的な実践例を考えてみましょう。音楽やリズムに合わせて身体を動かすことによって、音楽・間奏・耳・リズム感などの音楽的能力や、より豊かな表現力が養われるだけでなく、まよひを閉じて歌いたがらない中高生や男子にも有効な方法が含まれているようにも思います。楽譜の向こうにあるメロディを読みとり感じとることで、楽譜からは与えられない音楽の立体性を感じることや想像力も身につくように思います。子どもコーラスの場合、男子を取り留めますし、中高生たちも新入生と上級生、男子と女子に分けて合唱を楽しむことができるかもしれません。結果として「合唱って面白い」と思ってもらうことで、より自発的な姿勢が生まれてくると思います。リズムパターンは無限に作れると思います。肝心なのは、いくつかの素材から得るパターンを与え、自由な組み合わせを考えることもできれば、これは音楽そのものの構築性を支えるものでもありますね。

### ●ボディパーカッション

体全体を打楽器（パーカッション）にして、リズムを奏でることで、音楽に合わせてステップを踏みながら体重移動をしたり、フィンガースナップや手拍子はもちろん、自分の身体（膝や肩など）を叩いてみたりしてください。左右を交互（右手で左膝、左手で右膝など）させるのも面白いです。次第にダンスのような姿も出てきますね。

4拍子…「おおまきばはみどり」「なんもなしのき」（P28）に合わせてみましょう。



6拍子…「みかんの花咲く丘」「わたしのなかには」(P13~16)などに合わせてみましょう。

右に3拍・左に3拍体をゆらしします。 右体重 左体重

右体重 左体重 レンジしてみよう

( R ...右手 ...左手 ...右手が ...左手が )  
 ⊗ ...フィンガースナップ ⊗ ...フィンガースナップ X ...上の手拍子 X ...上の手拍子

さてウォーミングアップはここまでです。大事な要素を含んだ基礎練習ですので、わずかな時間でかまわないので是非続けてください。では次のページから楽曲に取り組んでいきましょう。

JOI TM  
JUM

## 音楽と身体表現

### ● 身体を使って内在するものを表現する

カール・オルフは偉大な作曲家であるとともに優れた教育者でした。そして、彼が残したメッセージは、単にテクニック・理論ではなく、音楽を通じて自分やまわりのことを知ること、演奏をする中で自分を表現し自分自身の生き方を見つけていくというような壮大なことでした。

オルフの残した教育理念とアイデアは、「音楽教育は幼児期の母国語で、遊びに似ているべき」「歌・踊り・言葉・その他の芸術が大きな一つの分野として認知されるべき」「個人体験を終始せずグループ体験であるべき」「常に創造的な取り組みであるべき」等の言葉に代わられるべきだと思います。いずれも質的なことばかりです。決してハウツーや上達テクニックではなく、「理論」とそれに基づく「アイデア」であることが重要だと感じています。

### ● 言葉としぐさの運動

そもそも歌は歌だけで最初から存在していたのではなく、必ず何かのしぐさや動作が運動して歌われてきたとも考えられます。労働歌などのリズムに合わせて、私たちの生活時代の遊び(かごめかごめ・おしくら饅頭…)にも、手を繋ぐ・身体をぶつけ合う・片足で跳ぶ・寝る・抱き合う…という動作と歌や囃子声が運動していると考えられます。

私は学校教育の中ではなかなか取り扱われない「遊戯歌」や「わらべ歌」を地域の力で伝えていく活動をしています。「遊びを覚めさせる」とは異なる発議で、歌とリズム、歌と表情・感情表現を意識的に結び、子どもたちの身体の中に刻み込むこと、それを「歌や合唱」に結び付けていくことは重要な課題だと思います。

この練習においても、例えば「この空に向かって」という詩で空を力強く指さして歌うことや「おはよ」という言葉で大きな動作をしながら歌うこと、音楽から感じられるリズムにステップを付けて歌うこと等があるかと思いますが、どれも有効な取り組みだと思います。グループに分かれて言葉や音楽を全身で表現しながら試してみることも、歌や音楽の本質に迫る練習になることと思います。

## テーマⅠ メロディを歌う

# わたしのなかには

作曲 山崎  
詞 みづき のり

### この曲でできること

まずシンプルなフレーズを掴んでみましょう。2小節単位のフレーズで息をどのようにとるのか？ その次に4小節単位にして前半と後半をどのように区切るのか？

そして4小節×4の全体の構成をどのように捉えるのか？ など「歌」の基本的な課題が凝縮されています。

また、用意された様々なバリエーションが、アンサンブル（合唱）への展開を理解させてくれます。互いの声を聞き合ったり、主張したりサポートしたり、互いを生かし合うにはどうしたらよいのか、と考えることが歌うことができます。

### ★作曲者による作品解説

臨時記号のないシンプルな曲です。ただ、曲について旋律に起伏があり、順次進行も跳躍進行も出てきます。強弱記号等は書いていませんので、旋律の上昇や下降に沿って自然な表現を自由に試してみてください。なお、楽譜や個人の音域によって、移調して歌ってもかまいません。また、様々なバリエーションを用意しました。役割を入れ替えたり、表現に変化をつけたりしながら歌ってみてください。

### ♪うたいかた

#### ①移動ドで読んでみよう

いきなり読みながら歌うのが難しければ、実際に書いてみるのもいいでしょう。ウォーミングアップのページで出てきたハンドサインも有効です。移動ドで読んでいけば、移調するときも簡単にできますよ。

#### ②単母音で歌ってみよう

音が取れたら、任意の母音でメロディを歌ってみましょう。一つの母音で歌ったとしても、音域によって微妙に音色が変わってくるだけです。自分が弦楽器や管楽器を演奏しているイメージを持ちながらやってみるとよいかもしれません。

#### ③歌詞をつけて歌ってみよう

歌詞をつけることで移動ド読みや母音唱の時よりも少し感情が加わりますね。言葉があることで、音楽に向かっていく方向が分かりやすいかもしれません。曲がシンプルなので、日本語の発音・発語の練習にもなるでしょう。

## わたしのなかには

曲・北川昇 / 詞・みなづきみのり

かなしいときーにあなたをおもー

くるしいとにあなたをおもうー

いつでもどこでもわたしのなかには

わたしのなかにはあなたがいる

©Copyright 2017 by Brain Co., Ltd.(Hiroshima, Japan) All rights reserved.

# わたしのなかには

(高音オブリガートバージョン)

曲・北川昇 / 詞・みなづきみのり

I

かなしい とき に あなたを おも い

5

るしい と き に あなたを おも う

9

いつでも どこでも わたしの なか に

13

わたし の なか に は あなた が いる

この曲は、簡単な歌唱曲になりました。これは、低声部が主旋律です。単旋律の時と同様に、オブリガートのパートも移動ドで読んでみましょう。その際、臨時記号には注意です。二声同時に移動ドで読むと、パート間の関係性も少し見えやすくなるでしょうか。普段は対旋律を歌うことが少ない高音パートの人たちにも、ハモることの楽しさを感じてもらえるバージョンです。

# わたしのなかには

(低音サポートバージョン)

曲・北川昇 / 詞・みなづきみのり

I  
かなしいとき - に あなたをおも -

II  
u u u

5  
くろい - き - に あなたをおも う -

II  
u u u

9  
いつでも どこでも わたしの なかには

II  
a a a

13  
わたしの なかには あなたが いる -

II  
a a a

## たいかた

続いて高声部が主旋律の歌声を歌っていきましょう。やはり移動ドがある程度有効ですので、ハーモニー感覚を養うにはかなりよい内容です。

# わたしのなかには (一部カノンヴァージョン)

曲・北川昇 / 詞・みなづきみのり

I  
かなしいとき - に なたをおもい

II  
かなしいとき あなたをおも

5  
くるしいとき - に あなたをおもう -

9  
いつでも どこでも わたしのなかには  
う いつでも どこでも わたしのなかには

13  
わたしのなかには あなたがいる -  
わたしのなかには あなたがいる -  
う いかな

「う いかな」からがヴォカリーゼのままでは面白くない！ ということで、二声とも歌詞付きにしてみました。さらにカノンの要素が加わり、より合唱曲に近くなっています。単旋律の時のように、移動ド→単母音→歌詞をつけて歌うという段階を経ると構造がより理解できるでしょう。



## テーマⅠ メロディを聞き合う、歌い合う

# いつまでも／We will sing a song

曲・「いつまでも」  
詞・みづきり

### この曲のできること

それぞれの曲について、フレーズを意識した息の運び・リズム・イントロネーションなど、独立した課題と向き合うことができます。また、2曲が重なったとき、新たな別の曲が自然的に立ち上ることを実感できます（水と目で=涙になるように）。

それぞれが元気に歌うだけではうるさくなってしまいます。それぞれの歌詞も聞きとれるように工夫していく中で、互いの歌やメロディの特徴を生かしながらアンサンブル感覚の基本が身に付くでしょう。

### ★作曲者による作品解説

それぞれ1曲の「曲」として歌うことのできる作品ですが、同時に歌うことで、より立体的なハーモニーを楽しむことができる「ハーモニーソング」として構成しています。

「いつまでも」と、英語の作品「We will sing a song」の組合せになっていますので、ハーモニーはもちろん、重なる歌詞の表現も工夫して楽しんでください。どちらの曲も、歌詞が明確に聞こえるように気をつけましょう。

### ♪うたいかた

- ① 2チームに分かれて、それぞれの曲を、1曲ずつ歌いましょう。
- ② 全員で2曲同時に歌いましょう。

### もうたう際のポイント

- 1曲ずつ独立した曲であることを意識して、曲ごとフレーズの頂点を考えてそれぞれの曲で完結させましょう。
- 2曲を同時に歌うときは、互いの歌を聞きながら合体させましょう。
- 慣れてきたら、歌詞の入りのタイミングをそれぞれ意識してみましょう。

ピアノ伴奏を加える際は、歌詞に合わせてそのまま弾くか、もしくは、各小節1拍目の和音を弾いてください。

Mini  
COTTAGE

### ハーモニーソング

2つの歌を同時に歌って見たら何だか最初から「ぴったり合っていた」というようなことがあります。最初からそれを狙って「ダブルメロディ」として書かれている曲もありますが、例えば「ロンドン橋」と「メリーさんの羊」や「キラキラ星」と「霞か雲か」などを同時に歌ってみると、上手くアンサンブルしたり似た箇所が重なりそうになったりして、それが楽しかったりもします。このような曲を見つけて向き合ってみるのも合唱のイントロダクションとして面白いのではないのでしょうか。

# いつまでも

曲・三好 真亜沙 / 詞・みなづき みのり

*♩=104 mf*

いつまでも 　　いつまでも 　　ともだちで  
 いつまでも 　　いつまでも 　　もだちで  
 いつまでも 　　いつまでも 　　ともだちで

6 *cresc. mp*  
 　　よう なし みもくや しさも 　　か 　　たりあいなが  
 　　いよう 　　も 　　ち 　　で 　　か 　　たりあいなが  
 　　いよう 　　も 　　ち 　　で 　　か 　　たりあいなが

12 *mp*  
 ら う なずきあいながら て を とり この  
 ら う なずきあいながら て を とり この  
 ら う なずきあいながら て を とり この

17 *poco riten.*  
 みちを このみちを あるいて いこう  
 ちを このみちを あるいて いこう  
 みちを このみちを あるいて いこう

# We will sing a song

曲・三好 真亜沙 / 詞・みなづき みのり

*♩* = 104 *mf*

The musical score is written for voice and piano. It consists of four systems of music, each with a vocal line and a piano accompaniment line. The key signature has three flats (B-flat, E-flat, A-flat), and the time signature is 4/4. The tempo is marked as 104 beats per minute. The score includes various dynamics such as *mf*, *p*, *f*, *cresc.*, and *poco riten.*. The lyrics are written below the vocal line.

We will sing a song to - geth - er, We  
We will\_ si - ng a song to - ge - ther, We will

6 *p* *cresc.* *mp*  
a so - ng, We will sing a song, We will  
sing a song to - ge - ther, We will\_ sing a song, We

12 *f*  
sing a song, shine in fu - da - ys, in fu - ture days.  
sing a song, and shine in fu - ture da - ys in fu - ture days.

17 *f* *poco riten.*  
So sing to - ther and shine in fu - ture days.  
So sing to - ge - ther and shine in fu - ture days.

# いつまでも / We will sing a song

曲・三好 真亜沙 / 詞・みなづき みのり

Choir I

Choir II

6

12

17

*poco rit.*

*poco rit.*

Preview Only  
Legal Use Requires Purchase